

大阪府協会ニュースレター 2009

目次

- 特集(1) 府協会メンバー投稿 「今後の目標」
大阪オリエンテリング・アーカイブス Vol.3
「コンターズ練習会が始まったころ = 80年代」【辻村 修】・・・P1
活動PR【三上雅克】・・・P5
大会PR
「大阪OLC35周年記念大会」【野澤建央】・・・P6
「アジア選手権」【村越真】・・・P8
特集(2)「大阪・関西の今後を考える」・・・ニュースレター7号 別冊

特集 ・ 府協会メンバー投稿「今後の目標」

最終号の特集1は、府協会メンバーからの投稿です。「今後の目標」というテーマで募集したものです。(HP版には個々の投稿内容は掲載しません。)

大阪オリエンテリング・アーカイブス Vol.3

「コンターズ練習会が始まったころ = 80年代」

辻村 修(コンターズ)

奈良県「菟田野」の第22回全日本大会と大阪府「摂丹街道」の第6回インカレに続いて、コンターズ練習会がアーカイブ・シリーズに登場することとなりました。前の2つが全国的な大イベントだったのに対して、これは大阪府協会のメンバーでもない弱小クラブの、それも大会でなくて練習会なのですが……。毎年一つずつ回数を数えて今夏で最終の30回、というのが編集者の目を引いたのでしょう。おりおりの練習会を話のきっかけにして、80年代のOL界を思い出すことにします。(以下、敬称略)

クラブ創立（1978年）のころ

クラブの創立は1978（昭和53）年7月16日で、メンバーは私立甲南高等学校・中学校の生徒と教員（とその家族）でした。中学生時代にはパーマントコースを回ったり、六甲山 OL 大会などに参加していた桑垣泰と藤井範久（現 JOA 理事、アンチドーピング委員長）が、次のステップを目指してのことです。

その春3月12日に茨城県「常陸大子」の第4回全日本大会（英国から帰国した杉山隆司氏が優勝）へ、新任の游賢忠もまきこんで4人で遠征したことが、大きな契機になったと思います。それに、神奈川県「風祭」 山梨県「ジラゴンノ」 岐阜県「深緑地」 和歌山県「紀州伊太祁曽」と次第に近づいてくる全日本大会が、高揚感を煽ったかもしれません。実際、風祭から家族3人（紀子・歩・進）も加わり、深緑地の HE（現在の ME）に桑垣が初登場し、他のメンバーもそれぞれのクラスで入賞を狙うほどになりました。

そのころ既に、近畿 OL 連絡会が大阪 OLC のお世話で年に1回開催され、OL 行事の日程調整をしていました。80年5月の名簿には、京都府に亀岡 OLC・京都 OLC・田辺 OLC・長岡京市 OL 委員会、大阪府に TEAM HO・OLC レオ・大阪 OLC・岸和田 OL 協会・高槻 OLC・松原市 OL 協会、兵庫県にパトロール兵庫・コンターズ・宝塚市 OL 協会・加西 OLC、奈良県に奈良 OLC・山辺 OLC、和歌山県に東燃 OL 同好会、そして関西学生 OL 連盟の名が並んでいます。やがて、兵庫・大阪・京都の輪番制になり、冬も開いて夏は関西学連が担当し、議事録を発行し、と現在の形に近づきました。

第1回（1981年）のころ

OL というスポーツの世界を知り、兵庫県や近畿地方から外へ踏み出してみ、競技に参加するだけでなく運営にもかかわってこそ、と気付き始めたようです。桑垣が甲南大、藤井が神戸大へ進んだ80年度と翌81年度には、クラブにいろいろな変化が見られました。

クラブ誌「こんたりんぐ」の創刊（81年3月。編集長桑垣、隔月刊、2号までガリ版、3号まで片面、24号まですべて手書き原稿）、クラブ旗の作成（81年3月。藤井の手染め、マスコットは狐のコン太）、外部向け練習会（クラブ内の練習会はこの時点ですでに23回）、合宿（81年8月20～23日、埼玉県所沢市「多福寺」7人参加、後半台風直撃）などです。合宿は1回だけで終わりましたが、それ以外は30年後の今も継続して現役状態です。

その練習会の第1回は、81年8月9日に大阪府豊中市「緑地公園」で行われました。A/B クラスはコンパス OL、N クラスはポイント OL という趣向です。当時の大会は今で言うロングのポイント O を山林トレインで行うのが普通だったに対して、公園で OL の基礎技術を習得錬磨する練習会としました。ライバルと競う楽しみや

練習内容の理解のため参加者全員に詳しい成績表を送付する、Bは短いだけでAと同じ内容とする、初心者向けのNを設ける、というのも最初からの考えでした。

最初のこととて、事前申込者42人に対して当日申込者は何人くらいになるか見当もつかず、70人分用意したのがぎりぎりでした。A/Bは特製地図なので、枚数が尽きれば当日申込者はA B Nと移ってもらうことにし、マスターマップのNで溢れを吸収しました。今もこの方式を続けていますが、円の中心を素早く正確に読み取ることを初心者に教える必要もあると痛感しています。コンパスOLは多分、関西で2度目の試みでした。

成績表は挨拶・成績・セッターコメント・インタビュー・参加者分析・大会情報という内容で、その夜のうちに手分けしてB5の8ページにまとめ、翌日発送しました。A35人の上位7人には、20歳前後のチームHOと中年のOLP兵庫が並んでいます。参加者69人の顔ぶれは中高生(郷荘・摂津・茨木・春日丘・西宮東)が23人で、大学生(立命・神戸・広島)6人を圧倒しているところが、今と大きく違う点です。

第3回(1983年)のころ

第2回(82年8月8日、兵庫県西宮市「仁川甲山」、スコアOL)で優勝した千里高3年瀧川英雄は歩と同学年で、千里高OLC・関西高校OL連盟・関高連定例戦・高校生親善東西対抗戦などに指導力を発揮したのち、神戸大に進んで神戸大OLCと関西学生OL連盟で活躍しました。第3回(83年8月7日、大阪府豊中市「あほんだら獅子」、コンパスOL+フリーOL)に京都大OLCから10人近い参加がありましたが、それは歩が京都大に進んで早速クラブに入ったからです。この2人のよきライバル・仲間関係はこれからも長く続くことでしょう。85年度には瀧川が関西学連幹事長で歩が日本学連事業部長を務めましたし、その前年に瀧川らが創設したOLCふるはうすに歩も所属しています。

83年2月27日、第1回ウェスタンカップリレー大会がOLP兵庫主管のもと兵庫県三田市「月見橋」で開かれ、4クラス62チームが参加してOLCレオの山田・河合・愛場がカップを獲得しました。そして、85年2月24日奈良県生駒市「傍示の森」(大阪OLC、3クラス72チーム、OLP兵庫の片山・城森・内山)、87年2月15日京都府宇治市「太陽が丘」(京都OLC、4クラス91チーム、OLP兵庫の片山・城森・大江)と3府県を一巡しました。

85年3月24日の全日本(岩手県「萩荘」)には、藤井と歩がエリートで出場しました。社会人1年生の桑垣以外の6人は勇んで出かけましたが成績は今一つ、D43Bの紀子が5大会で金2銀1銅1を獲得して、メダルハンターの異名を頂戴しました。

第7回(1987年)のころ

歩はクラブで優れた先輩同輩に恵まれて、85年の第7回 IC 団体4位(辻村・片山・山根・長谷川)と第8回6位(長谷川・辻村・山根・金澤)に貢献しましたが、最終学年の第9回ではコンディションを崩して地獄を見ました。対して瀧川は、第9回で個人優勝(前回4位)と団体6位(橋本・大西・瀧川・中島)をかちとりました。

それまで関西からの個人入賞者は、第2回4位西田伸一(京都4)と第5回5位赤塚宏(京都府立3)だけで、連続入賞は初めてでした。その後、第12~14回と3連続入賞した中村弘太郎(京都2~4)を初めとして入賞者は増えてきましたが、優勝者となると男子は第11回井上健太郎(大阪4)だけ、女子は第23・24回番場洋子(京都3・4)と第30・31回関谷麻里絵(京都3・4)がともに2連覇と、男女2人ずつにとどまります。

歩の2学年後輩の充子(旧姓川上)も、第9回5位(若林・竹内・川上)第11回6位(竹内・川上・若林)と活躍し、8頭目の狐になりました。同学年の進の大阪府立大学にはOLCがなくてオーケストラに所属し、OL大会への足が遠のきました。兄が実行委員長(競技責任者瀧川。藤井は裏方で人事担当)を務める第11回 IC(89年3月10~12日、奈良県「都介野岳」「大和高原」)に、学校枠で出場するも学連枠は叶わずという結果でした。

その間、第7回練習会(87年8月2日、大阪府豊中市「新千里」、ラインOL+メモリーOL)にはクイズを出題してレポート提出者は参加費無料とし、以後のコンターズ練習会の型が定まりました。なお、「こんたりんぐ」の新春パズルは83年1月の第12号からで、92年の第22号からは解答を募集して今に至っています。

このころのコンターズにとっての一大イベントは、第4回ウェスタンカップリレー大会(88年1月17日、大阪府高槻市「白滝摂津峡」、5クラス100チーム、京大OLC松岡・山下・鈴木)の運営参加です。委員長藤井・競技責任者稲田旬哉・運営責任者北川達也・競技OLCふるはうす・涉外チームHO・ゴールOLCレオ(第1回優勝)・成績処理コンターズ(前回、歩・進・藤井で準優勝)と、北摂の若者が初めての実行委員会に結集しました。

我々担当の速報と成績表は正確であって当然、さらにスピードや内容を極限まで追求しました。その結果、ゴール後1~3分で速報し、翌日に成績表(B4で12ページ。実行委員長挨拶、競技責任者報告、チーム・個人成績、グラフ、優勝チームコメント、4回の概要)を発送することができました。それまでの練習会の経験をいかして、秒単位のシミュレーションや行単位のレイアウトを積み上げた末に、人力運営の一つの姿が示せたし、ハイテクを駆使する現在も破られていない記録だと、誇りに思っています。

「活動PR」

三上雅克（OLCふるはうす・福井県OL協会）

私は地元福井にていくつかのOLイベントを実施してきましたが、もっと活動範囲を広げてOL普及の一端を担いたいと思い、今年から新たな活動を行います。若い世代にOLを体験する場を提供するために、自分なりの考えのもとに行います。

活動方針

主にオリエンテーリングの普及のため、地図作製およびイベントの提供を行う。

個人活動であるため、開催地の地元クラブ、個人、参加者等の協力を得てイベントを実施する。

基本として非営利活動とし、イベント開催により調査、運営費分の収入を期待し、それ以外についてはOL過疎地での活動、個人強化活動サポート、その他の普及等に使用する。

具体的活動

1. 高精度マップの提供
 - ・新規マップおよびリメイクマップの作製
 - ・旧図のOCAD化
2. 未経験者獲得のため、パークOを中心としたレクリエーション的イベントの提供
 - ・気軽さ、安全面、交通アクセス等の条件面をクリアするパークOをアピール
 - ・初心者、幼児向けコースの提供（ピンパンチ、マップ上にチェック、所要時間のセルフチェックにより安価に提供）
3. 大会運営の見直し
 - ・少人数（5名程度）できるようなシステムの検討。セルフに出来るところは参加者に協力を求める。
 - ・コントロールの前日設置、翌日撤収も考慮する。
4. 野外活動センター周辺のマップ作製
 - ・各地に存在する野外センターで使用されなくなったマップを復活させる。
 - ・センターの活動プログラムに復帰を促す。
5. OL過疎地でのイベントの提供
 - ・将来的にはOL人口の少ない四国、山陰地方でのイベントを企画したい。

大会PR

記念すべき一回目のイベントを5月末に生駒山麓公園にて開催します。

林に囲まれた起伏の多い公園で整備された林道が多く見られます。初心者にとってつけの場所であるといえます。野外活動センターや宿泊施設を完備し、今後の利用度の高さが期待できます。

学生の新歓活動の時期に間に合うようこれから準備していきます。皆さんご参加下さい。要項が出来次第公表しますので、楽しみにお待ち下さい。

大会PRコーナー

JOA 公認大会 カテゴリーA

大阪OLC 35周年記念大会

共催:日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロングディスタンスの部

針葉樹林立 80%超過!

関西にもあった、豪華針葉樹林帯を駆け抜けよう!

PR原稿を依頼されましたが、現在の学生OL界、インカレを取り巻く危機的状況に想いを寄せていただくため、インカレロングとの共催に至った経緯から書き始めます。

大阪OLCがインカレを共催?また何か学連へうまく話を持ち込んだのだろうか。というように言われぬように、はじめに共催になったいきさつについて述べさせていただきます。35周年大会を開催するにあたって大会日程を探した場合、過去の大阪OLCでは、春か初冬の開催がこれまで通例でありました。しかし春の場合、インカレ・インターハイは避けねばならず、その後にはアジア選手権=全日本が控えていました。また初冬では、運営的にいつも日没との時間的な戦いとなってしまいます。そこで白羽の矢が立ったのが11月開催でした。しかしこのころには、インカレロングが開催されているはずであるので、大阪OLCから日本学連へ大会日程の重複のないように問い合わせをしました。その結果、返ってきた答えが「インカレロング」を引き受けてもらえないかとのことでしたので、驚いたの

は当方でした。実情を聞けば、日本学連には、以前のように実行委員会メンバーを大量に集め、インカレミドルなら何とかなるが、ロングまでは手が回らない(実行委員会を組織するメンバーが集まりにくい)。しかしインカレとしてロングの継続は、はかっていきたいという強い意思はある。またインカレロングについては、春のミドル・団体戦ほど制約があるのではなく、ある程度自由度があるようで、現に過去2008年には中日東海ブロック大会が共催されている。といったことを説明され、いろいろ検討をしたところ、インカレロングの本質をあまり損なわないで大阪OLC流でかまわないのであればお引き受けしましょうということになり、宿泊手配、前日イベントまでとても手が回らないがそれでもOKとのことであったため、インカレの継続性維持の一助になるのであれば当方としてもうれしいものであるので、共催となったのです。この問題についての別角度からの資料として、2009インカレロングのブログの最後のページに日本学連副会長が執筆されているので(2009インカレロングのサイトから見れます)、参考までにご一読ください。

さて、ここからが本題、35周年記念大会のPRです。場所は旧MAP名称「長者屋敷越」すなわち奈良県桜井市と宇陀市の境界線。近鉄大阪線の長谷寺駅～榛原駅の南側の山塊になります。すなわち15年前のリメイクです。15年経過すれば杉・ヒノキといった針葉樹林は、相当成長するものです。トレインの大部分が針葉樹林ですので、関西では味わいにくいOLを提供できることになると考えています。(その分、地形が把握できないと、そして植生界をうまく活用しないとパラレルワールドに引き込まれることになるでしょう。)調査に当たってはGPSを投入、インカレ共催と言うこともあり、大阪OLCの精鋭のほかにも各調査段階でアウトソーシングも導入。西の山川氏をめざしプロ宣言をされた三上氏の門出祝いも兼ねて、三上さんにもお手伝い願うのをはじめ、ボランティアとして手をあげてくださった西村徳真さん、元日本代表チームヘッドコーチJOA強化委員 Rob PLOWRIGHTさん、みのお全日本でもご尽力いただいた中村弘太郎さん、そして最後はインカレの統一水準を維持するため、ジェネシスが調査を締めくくります。

豪華なMAPで豪華なトレイン！そしてJOA公認カテゴリーA。これだけ揃えば、参加しないなんて、あなたのOLの虫は騒がずにはいられないはず。秋の1日、平安遷都1300年祭で沸く奈良大和路でのOLを精一杯お楽しみください。役員スタッフ一同、最大限の努力でお出迎えいたします。

なお、当大会はインカレロングと共催ですので、インカレをお手伝いしたいという方は、別途日本学連インカレ担当理事の木村佳司さんまたは野澤までお問い合わせください。役員で楽しむのもまた一興です。

それでは、みなさまの参加をお待ち申し上げます。

今こそ登れ、アジアの頂点へ！

(アジア選手権キャッチフレーズ)

APOCとはどう違うの？

古くからオリエンテーリングをしてきた人は、18年前に静岡・愛知でアジア環太平洋選手権（APOC92）が開催されたのを覚えていることでしょうか。APOCが始まった1970年代後半には、まだワールドマスターズもありませんでした。トップ選手でなくても、海外選手たちとの交流を楽しみながらオリエンテーリングをしたい。特にオリエンテーリングの中心地北欧から離れた環太平洋地域では、その願いは切実なものでした。その思いは、オーストラリアのデービッド・ホッグ氏によって環太平洋オリエンテーリングカーニバルとして結実します。その後アジア地区での発展を受けて、アジア環太平洋選手権（APOC）と名称が変更され、2006年の香港大会まで30年近い間APOCは継続され、アジア・環太平洋地域のオリエンテーリングの発展と、オリエンティアの交流に大きく貢献しました。

その間、世界のオリエンテーリング事情も大きく変わりました。35歳以上の愛好者が世界中から集まって交流と競技を楽しむマスターズ世界選手権が1999年から始まりました。そのため、環太平洋選手権に対する北米、オセアニアが下がり、APOCの存在意義が問われるようになりました。一方で、国際オリエンテーリング連盟（IOF）では、地域でのオリエンテーリングの発展を目論み、地域単位の選手権大会の開催を構想しました。IOFの動きを受けて、アジア中心となったAPOCを発展的にアジア選手権にしようとする決議が2006年の香港でのアジア環太平洋会議で承認され、2008年にその第一回大会が韓国で開催されるに至りました。こうしてアジア選手権は産声を上げたのです。

誰でも参加できるの？

IOFの構想では、地域選手権はトップ選手の地域チャンピオンを決定する大会という位置づけでした。実際ヨーロッパ選手権はそうなっています。一方、アジア地区はまだまだ発展途上にあり、トップ選手の層も厚くありません。同時に普及発展という面からは、エリートクラスだけでなく、ジュニアやマスターズクラスも同時に開催することに大きな意義があります。このためアジア選手権では、エリートクラスだけでなく、ジュニアから高齢者に至るまで全てのクラスを含んだ大会が提供されています。

レースの特徴は？

アジア選手権の規則によれば、大会はスプリント、リレー、そしてミドルまたはロング(あるいはミドルとロング)によって構成されます。つまりミドルとロングはどちらか一方だけを開催してもよいことになっています。これは、将来的にロングを開催するような大きなテレインを持たない東南アジアでも開催を可能にするための措置です。しかし、韓国ではミドル、ロングの両方の4レースが行われました。日本でも、この4種目が実施されます。スプリントは根の上高原(5月1日)、ミドルは椈の湖(5月2日)、ロングは菅沼(5月4日)、リレーは鬼久保(5月5日)にて開催されます。

海外選手の参加状況は？

最終的な申し込み締め切りは大分先ですが、現在のところ韓国、中国、香港から選手派遣の打診が来ています。またアジア外からの問い合わせも出ています。

注目されるのは中国のエントリーです。前回韓国大会では、世界選手権の直後で、中国は世界選手権代表チーム級をほとんど送ってきませんでした。この年、シドニー五輪の1万メートルファイナリストのリ・ジなどのメンバーで、中国女子は世界選手権リレーで7位と、入賞まであと一步のところまで迫っていました。また男子も世界選手権では日本に迫る結果を残していますし、韓国大会では日本を押さえたりレーで優勝しています。

前回は日本チームも必ずしもベストメンバーではありませんでしたが、今回はホームということでほぼベストなメンバーが予想されます。もし中国がベストメンバーで臨めば、今回こそ真のアジアチャンピオンを決める熱い戦いが繰り広げられることでしょう。

レース以外の見所は？

レースは前半の5月1日、2日と岐阜で行われ、休養日の後は愛知でロングとリレーが行われます。岐阜のレースは中津川周辺で行われます。休養日や早めに終わるスプリントやミドルの後に、馬籠や妻籠といった中仙道の宿場町を訪れてみてはいかがでしょうか？またややタイトなスケジュールになりますが、世界遺産の白川郷や高山を訪問してはいかがでしょうか？海外観光客にも人気のあるこれらのスポット向けのツアーも公式宿泊・輸送提供者のJTBによって提供されます。

最終日5月5日は、全ての参加者に開かれたバンケット(パーティー)が開催されます。前回韓国大会では、IOF副会長のヒュー・カメロン氏をして、「これまでに参加した中でももっとも印象に残るバンケットだ」と言わしめた国際交流が繰り広げられま

した。日本のユース選手によるアニメのコスプレも大評判でした。今年のバンケットでも、ぜひホスト国としてのホスピタリティあふれる交流を、参加者の皆さんに期待しています。

J O A 専務理事・村越真

編集後記

第7号は、「本体 + 別冊」という2本立てで刊行することができました。多数の投稿により、最終号にふさわしい充実した内容になったと感じています。

多くの方々が本誌にかかわっていただいたことで、大阪府そして関西オリエンタリング界の活性化が多少なりとも図られたのではないかと考えています。

本号を含め、これまでに投稿いただいた多くの皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

編集者：土屋俊平（府協会理事）